



発行：調布市 編集：行政経営部広報課

所在地：〒182-8511 東京都調布市小島町2-35-1 調布市ホームページ http://www.city.chofu.tokyo.jp/

042-481-7111

調布市制施行60周年



©水木プロ

親しまれています。水木さんを偲び、これまでの調布市との関わりを振り返ります。

これまで、市の図書館だよりの表紙絵を描き下ろしていただくなど、さまざまな形で市に貢献いただきました。また、鬼太郎が描かれたミニバスや自転車駐車場などのほか、天神通り商店街の「ゲゲゲの鬼太郎」のモニUMENTは、多くの市民に親しまれています。

水木しげるさんは、大正11年に大阪府生まれ、間もなく鳥取県境港市に移り住みました。21歳で徴兵され出征し、激戦地ニューブリテン島のラバウルで爆撃のため左腕を切断。昭和21年に復員後、漫画家としてデビューし、昭和34年に調布市富士見町に移り住みました。

調布市の名誉市民、水木しげるさん（93歳）が平成27年11月30日にご逝去されました。水木しげるさんは、大正11年に大阪府生まれ、間もなく鳥取県境港市に移り住みました。21歳で徴兵され出征し、激戦地ニューブリテン島のラバウルで爆撃のため左腕を切断。昭和21年に復員後、漫画家としてデビューし、昭和34年に調布市富士見町に移り住みました。

名誉市民

水木しげるさんを偲んで

故 水木しげる氏（本名：武良 茂）の略歴

年	内 容
大正11(1922)年	大阪市住吉区に生まれ、生後間もなく鳥取県境港市に移り住む
昭和18(1943)年	召集されラバウルに出征
昭和19(1944)年	戦地でマalariaを発症。焼夷弾で左腕を失う
昭和21(1946)年	ラバウルから日本へ復員
昭和33(1958)年	「ロケットマン」で漫画家デビュー
昭和34(1959)年	調布市民となる
昭和35(1960)年	「幽霊一家・墓場鬼太郎」を刊行
昭和36(1961)年	布枝さんと結婚
昭和38(1963)年	「悪魔くん」を刊行
昭和39(1964)年	漫画誌「ガロ」が創刊。人気漫画家となる
昭和40(1965)年	「テレビくん」で第6回講談社児童まんが賞を受賞
昭和41(1966)年	株式会社水木プロダクション設立
昭和42(1967)年	「墓場の鬼太郎」のテレビアニメ化に伴い「ゲゲゲの鬼太郎」と改題
昭和43(1968)年	「ゲゲゲの鬼太郎」のテレビアニメ放映開始
昭和48(1973)年	戦争体験をもとにした漫画「総員玉砕せよ！」を発表
昭和52(1977)年	自伝「のんのんばあとオレ」を刊行
昭和63(1988)年	自伝的漫画「コミック昭和史」を刊行
平成 3(1991)年	紫綬褒章受章
平成 8(1996)年	日本漫画家協会賞文部大臣賞を受賞
平成15(2003)年	旭日小綬章を受章
平成19(2007)年	「のんのんばあとオレ」でアングレーション国際マンガフェスティバル最優秀作品賞を受賞
平成20(2008)年	調布市名誉市民となる
平成21(2009)年	「総員玉砕せよ！」でアングレーション国際マンガフェスティバル遺産賞を受賞。2008年度朝日賞を受賞
平成22(2010)年	文化功労者に選出される
平成23(2011)年	東京都名誉都民となる
平成24(2012)年	「総員玉砕せよ！」でウィル・アイズナー賞最優秀アジア作品賞を受賞
平成27(2015)年	「コミック昭和史」でウィル・アイズナー賞最優秀アジア作品賞を受賞

水木しげるさんを名誉市民に

漫画を通しての調布市への貢献や文化の興隆、さらには多くの市民から愛されていることから、平成20年3月に名誉市民に推薦しました。顕彰式であいさつに立った水木さんは、「こういう席で何か一言といわれても、うれしいと言わざるを得ないし、悲しいとは言えないですな。まあ、ありがとうございますということで、終わりでございます」と話され、場内は笑いの渦に包まれました。



市報ちよふでの対談エピソード

昭和45年の元旦号で、水木さんは、「平和を維持するという大きな目標があることを忘れて人が多いですね。」と平和の大切さを訴えました。また、「どうして自然を守らないんでしょうね。大きな立派な木をどんどん切っていますね。深大寺も十年すれば、どうなるでしょうか。あの周辺だけでも守り抜きたいですねえ。」と自然保護の大切さにも触れられていました。

また、平成22年の元旦号では、水木さんの妻・武良布枝さんと長友市長の新春対談をご紹介します。同席された水木さんは、水木夫妻にとっての調布は？という質問に、「私が来たところから畑でしたけど、今でも畑ですよ。だから昔と変わらぬ。でもビルなんか見えているよりは畑のほうが頭がすっきりするものでした。だから具合はいいです。頭がますますさえてきます。深大寺なんかいいね。」と笑顔で答えておられました。



調布市長 長友貴樹

水木しげるさんの突然の訃報に接し、しばし呆然としてしまいました。長年にわたりお目にかかるうちに、私は水木さん人間界を超越した存在感、たとえて言えば、あたかも不老不死の法を修めると言われる仙人のような面影を拝見していたように思われます。水木さんは、無限に優しい方でした。数年前、心無い人間によって天神通りの鬼太郎像が盗まれるという残念な事件が発生しました。その時も、決して犯行を非難することなく、「盗んだ人に悪いことが無ければいいが」と、逆に犯人を気遣っておられました。その優しさはどこから生まれてきたものでしょうか。もちろん、生涯愛された故郷鳥取県境港における情愛に満ちた暮らしがお人柄に投影されたことは想像に難くありません。それに加えて、戦時中の筆舌に尽くし難い環境が、水木さんのその後の人生に何らかの影響を及ぼしておられたのでしょうか。私には、死線をさまよい、九死に一生を得られた体験が博愛を導き、それによって万人が癒されていたのだらうと思われまします。その思いを大切に受け継ぎながら、より「ぬくもり」の感じられるまちを創ってまいります。水木しげるさん、本当に有難うございました。

調布市議会議長 鮎川有祐

水木しげるさんの思い出として真っ先に思い浮かぶのは、平成20年3月の調布市議会の本会議場で執り行われた、調布市名誉市民の顕彰式のことです。市長をはじめ、市の幹部職員とともに私も一議員として出席をしておりました。受章のあいさつに立たれた水木さんは、「名誉市民をもらっても、どってこと……」と本音もポロリ。そのユモア溢れる語り口調に、本会議場は、ドッと笑いの渦となり、一気に和やかな雰囲気になりました。お人柄を偲ばせる出来事として、今でも、強く私の印象に残っております。水木さんの御功績は、今さら申し上げるまでもありませんが、漫画家として一貫して追求されていた「自然への畏怖の念」や「平和を希求する想い」は、「ゲゲゲの鬼太郎」をはじめとする数々の作品やキャラクターたちによって、今後も世代を超えて引き継がれていくものと確信しております。また、半世紀にわたりお住まいいただいた、この調布市における文化や産業振興への御貢献は、計り知れません。心よりお礼を申し上げます。水木しげるさん、本当に有難うございました。安らかにお休みください。

●水木しげるさんの献花台を設置

平成27年12月27日(日) (予定) まで、文化会館たづくり1階エントランスに、献花台を設置しています。

